

地域社会振興財団研修会

第38回健康学習研修会—行動変容、意識変容の基本となるコミュニケーション技法の習得

研修期間：7月4日(木)～5日(金)

ねらい：「健康学習」の主体は住民。専門職が教える健康づくりでなく、住民が学ぶ健康。健康診断のデータを入口に住民の健康生活にどう結びつけていくか。保健医療従事者の関わりが意識を動かし、住民が自ら行動を興し、自分らしい健康につながっていくサポートが求められる。知識伝達、健康体験は健康行動のきっかけになる。健康問題を自分事として考え、継続的な健康行動に繋げるコミュニケーション法が健康学習の基本である。人のやる気を引き出す個対個のコミュニケーション法、集団を元気にする教室の運営法、住民が主体的に健康事業に参加し、住民と専門職が一体になった事業の展開法をつかむ。保健医療従事者に求められる健康学習の実践的技法・発想が分かる。

内容：住民が元気になるコミュニケーション—伝え上手、尋ね上手、返し上手／住民の視点に立ったメタボリック症候群対策—継続的行動変容につながるコミュニケーション／集団対象の健康学習の基本／他

対象：保健師、栄養士、医師

定員：30名

受講料：1万8000円

申込期限：6月4日(火)

第19回健康企画・評価研修会—住民の心身トータルの健康を目指した事業の企画法

研修期間：7月25日(木)～26日(金)

ねらい：保健事業は何をもって成功と言えるのか。住民の満足度、データ改善、保健医療従事者の納得度、医療費の安定化……。立場、時代、社会状況により健康のキーワードの優先順位は変わる。目標設定を明確にした内容、運営法の工夫が求められる。健康情報の伝達に加え、保健医療従事者に「企画力」「評価力」「人材育成力」「連携力」「広報力」が求められる時代となった。とりわけ、医療費の安定化が叫ばれる今、事業の企画法に知恵が必要である。結果の出る保健事業の企画・評価について総合的に習得する。時代と社会が求める自分づくりができる。

内容：健康事業企画の基本的考え—まちづくりを目指した保健事業の企画法／参加したくなる心の元気教室の企画法／住民が参加したくなる広報の実際—パンフレット作成法が受診意識を変える／具体的事例検討／他

対象：保健師、栄養士、担当者および責任者(例：健康保健課長)

定員：30名

受講料：1万8000円

申込期限：6月25日(火)

第40回保健活動研修会—保健活動に生かす疫学・統計セミナー(学会発表・論文執筆まで)

研修期間：8月2日(金)～4日(日)

ねらい：日常の保健活動を発展させていくためには、現状を常に評価し、新たな目標設定と計画の策定が必要である。そのためには保健活動の現場における調査・研究の手腕を身に付け、実際に研究を行い、最終段階として学会発表や論文執筆により世の中からの評価を受けなければならない。本研修会では、まず研究

の基礎となる疫学・統計学の基礎を学び、その上で、グループワークを通じて具体的な研究計画の立案にチャレンジする。さらに、実際のデータを用いて、データの処理・集計に必要なパソコンの技術を習得する。最終日には、学会発表や論文執筆、雑誌の編集委員会との対応等についても議論する。

内容：調査研究を遂行するために必要な基礎知識(講義：疫学・統計の基礎、調査研究の実際等)／調査研究を実施するにあたっての現状把握(演習：文献検索や情報収集の手法の習得)／政策の策定過程における研究成果の活用(特別講義)／実際の研究計画の立案(グループワーク)／実際のデータ処理・集計(演習：パソコンを用いた実習)

※日本公衆衛生学会認定専門能力認定に関する規定に基づき認定された研修会。1時間につき1ポイントが加算。

対象：地域保健、職域保健、学校保健の現場で保健活動を実践する保健師、看護師、栄養士、医師等、今後、保健活動において研究を行う予定がある者

定員：30名

受講料：2万5000円

申込期限：7月2日(火)

以下共通

会場：自治医科大学地域医療情報研修センター(栃木県下野市)

申込方法：下記URLから受講申込書をダウンロード、記入の上、郵送
申し込み・問い合わせ先：地域社会振興財団事務局研修課

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-160

☎ 0285-58-7436

FAX 0285-44-7839

✉ fdc@jichi.ac.jp

URL www.zcssz.or.jp

日本ラクテーション・コンサルタント協会 (JALC) 主催 第46回 JALC 母乳育児 支援学習会 in 札幌

日時：7月6日(土) 11:30~17:30, 7月7日(日) 9:00~15:00

会場：札幌コンベンションセンター
(札幌市白石区)

プログラム：

[1日目(7月6日)] 「2018年改訂『赤ちゃんにやさしい病院運動』と『母乳育児がうまくいくための10のステップ』—なにが新しく変わったか?」中村和恵(新生児科医)／「早産児に対するEHMD: Exclusive Human Milk Dietの利点」水野克己(小児科医)／「NICUでの母乳分泌の確立と維持 UP TO DATE—母乳の保存と取り扱いを含む」大山牧子(新生児科医)／「災害時の母と子への支援—私たちにできること・するべきこと」本郷寛子(ソーシャルワーク修士)

[2日目(7月7日)] JALC20周年記念シンポジウム「学び つながり 明日を拓く」／「日本の助産師教育と国際認定ラクテーション・コンサルタント(IBCLC)」井村真澄(助産師)／「どうしたらいいの? 私の母乳育児—母親に伴走する支援を」菅原光子(助産師), 古賀浩子(助産師), 西垣敏江(IBCLC)

対象：母乳育児を支援する専門家(助産師, 看護師, 保健師, 医師, 歯科医師, 栄養士など), 学生その他母乳育児支援に興味のある方

申込方法：JALC 公式サイト(jalc-net.jp) および JALC 学習会専用案内サイト(jalc-study.jimdo.com)を参照

問い合わせ先：日本ラクテーション・コンサルタント協会

〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央 2-17-3 フリード泉中央

203 号

FAX 022-725-8561

✉ info@jalc-net.jp

第24回日本在宅ケア学会 学術集会

日時：7月27日(土), 28日(日)

会場：仙台国際センター(仙台市青葉区)

テーマ：いのちと暮らしを支える在宅ケアのバイオニア・スピリット

プログラム：

[7月27日] 学術集会長講演「いのちと暮らしを支える在宅ケアのバイオニア・スピリット」尾崎章子(東北大学大学院医学系研究科)／シンポジウム1「人口減少地域での看取りをどう支えるか」／ランチョンセミナー／教育講演1「やってみよう! 混合研究法へのいざない」亀井智子(聖路加国際大学大学院看護学研究科)／シンポジウム2「災害時の在宅ケア—軌跡からの学びと来たる災害への備え」／シンポジウム3「当事者とともにつくる Dementia Friendly Community」／委員会企画1「学会活動推進委員会」／スイーツセミナー／委員会企画2「政策提言検討委員会」

[7月28日] 特別講演「その人らしい生を支えるケアとは—臨床死生学の視座から」清水哲郎(岩手保健医療大学)／ワークショップ「生活と医療を統合する継続看護マネジメント」長江弘子(東京女子医科大学看護学部), 他／ランチョンセミナー／市民公開セミナー1「鼎談—最期まで私らしく生き抜くために今から考えてみませんか—仙台での取り組みから」宇都宮宏子(在宅ケア移行支援研究所), 玉井照枝(暮らしの保健室ケアカフェアンドンチ), 佐藤薫(東北公済病院)／教育講演2「地域包括ケアにおける高

度実践看護師の役割を展望する」光根美保(別府玄々堂上人病院)／教育講演3「在宅ケア実践におけるライフレビューの可能性」安藤満代(聖マリア学院大学 看護学部)／委員会企画3「ガイドライン作成委員会」／市民公開セミナー2「孤立とセルフ・ネグレクト—身近な人のSOSに気づくには」岸恵美子(東邦大学看護学部)

問い合わせ先：

[学会事務局] 東北大学大学院医学系研究科老年・在宅看護学

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1

[運営事務局]

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町1-4-1 明治安田生命ビル4階 JTB 仙台支店内

☎ 022-263-6716

FAX 022-263-7481

✉ jahc24@jtb.com

本欄へ掲載を希望する学会・研究会・講演会などのお知らせがありましたら、本誌編集室までお送りください。

● ● ●

〒113-8719

東京都文京区本郷 1-28-23

☎ 03-5804-0485

✉ hokenshi@igaku-shoin.co.jp